

## どんな職業か

街頭に設置される立て看板からビルの屋上に設置される大型の看板まで、様々な種類の看板を制作する。

まず、依頼主と打ち合わせを行い、どのような場所にどのような形態の看板を設置するのか、意向を確認する。設置場所の状況などを調べて看板の形状を決め、何通りかのデザインを作成して依頼者に提案を行う。決定したデザインにしたがって、大きさや形状が屋外広告物条例や建築基準法の規制に違反しないように十分に注意して、平面図や側面図などの図面を作成する。工場では、作成した図面にしたがって、絵や文字を描いたり粘着シートをカットしたり印刷したりして、様々な看板を制作する。蛍光灯を内蔵したプラスチック看板やネオンサインを制作することもある。

完成した看板をトラックに積み込んで設置場所まで運搬し、クレーン車などを使用して取り付けを行う。交通の障害とならないように、夜間に作業をすることもある。

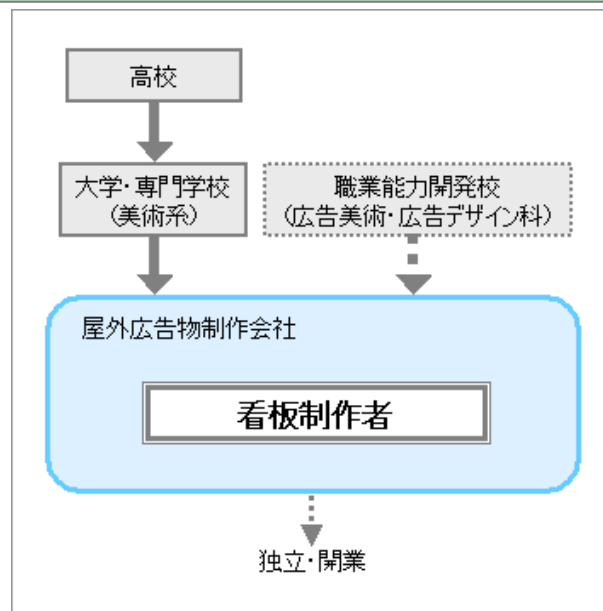
## 就くには

新規学卒の場合には、美術系の大学や専門学校などでデザインを学んでから入職することが多い。コンピュータ化が進んでおり、パソコンを使用したデザイン制作技術があれば、有利である。また、大学や専門学校などで工学や建築を勉強して、構造の設計に携わることもある。小規模な個人事業者では、経験者が優遇されることが多い。職業能力開発校の広告美術科において、技術を身につけることもできる。

必要な資格は特にないが、蛍光管やネオンサインを使用した看板など、「電気工事士」の資格を取得していなければ、業務に従事できない場合もある。

関連する資格として「屋外広告士」があり、屋外広告物の制作・施工に関する総合的・専門的な知識および技術を認定するもので、資格を取得することが屋外広告物の管理者や安全点検担当者になるための要件になっていることも多い。

小さな事業所では、一人の人が一貫して制作にあたることも多く、経験を積んで独立することもある。



## 労働条件の特徴

受注から納品までのスケジュールがまちまちであるため、労働時間も不規則になりがちである。会社の合併や社名変更の場合など、指定された日にいっせいに看板を変更することもある。営業の妨げにならないように、店舗が閉店した後の深夜に取り付け作業を行うことも多い。

就業者の男女別では、男性が4分の3程度を占めているが、制作作業がコンピュータ化するにつれ、女性の進出が増加している。

受注生産のため月々の売り上げの変動が比較的大きく、景気に左右される職種であるといえる。

会社や施設の名称、商品やサービス内容を広く知らせるために、看板は効率的であり、将来的にみても不可欠な業種であるといえる。

## 参考情報

**関連団体** 社団法人 全日本屋外広告業団体連合会  
<http://www.nikkoren.or.jp>  
 社団法人 全日本ネオン協会  
<http://www.neon-jp.org>  
 社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会  
<http://www.display.or.jp>  
 全国電柱広告連合会  
 電話:03-3261-4466 FAX:03-3261-6878

**関連資格** 屋外広告士 電気工事士